

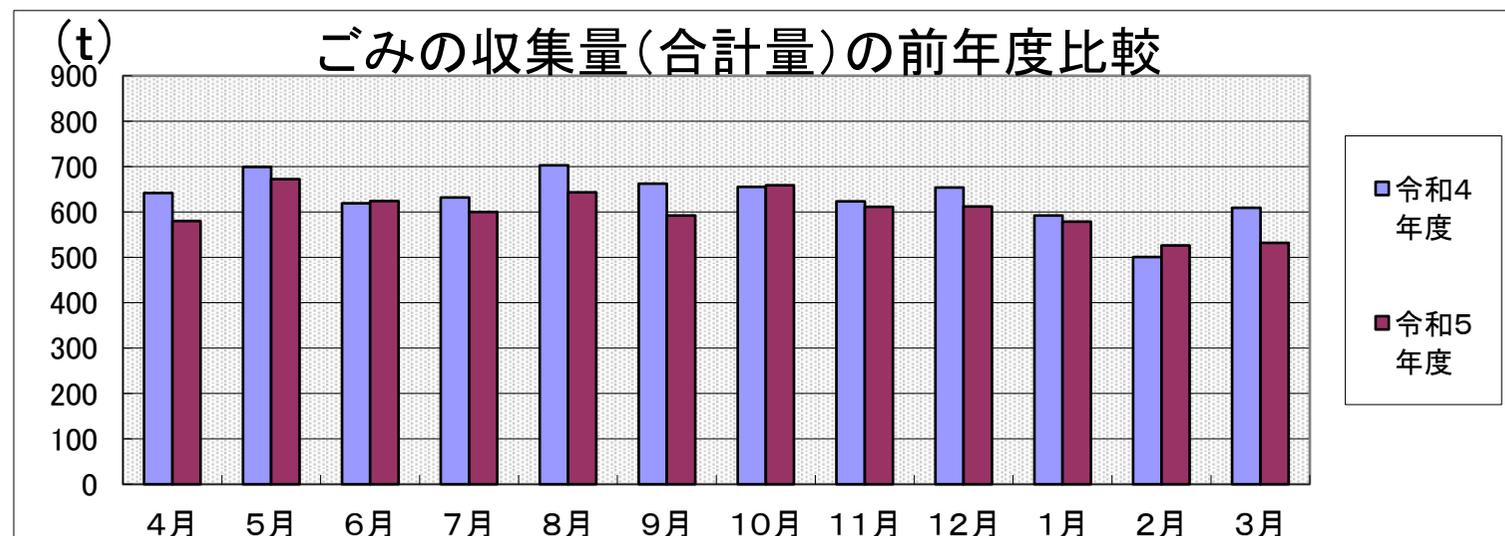
# 岩倉市のごみ収集量と資源回収量の状況について

資料No. 1

## 1 ごみ収集量の前年度比較 ※四捨五入等の都合により、各月の合計が合わない場合がある。 (単位:t)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	燃やすごみ	577	633	560	585	643	609	597	562	590	545	456	547	6,904
	破碎ごみ	65	66	59	47	60	53	58	61	64	47	45	62	687
	合計	642	699	619	632	703	662	655	623	654	592	501	609	7,591
令和5年度	燃やすごみ	524	602	571	554	586	545	603	547	551	529	480	483	6,575
	破碎ごみ	56	70	53	46	57	47	56	64	61	50	46	49	655
	合計	580	672	624	600	643	592	659	611	612	579	526	532	7,230
4年度と5年度の比較	燃やすごみ	▲ 53	▲ 31	11	▲ 31	▲ 57	▲ 64	6	▲ 15	▲ 39	▲ 16	24	▲ 64	▲ 329
	破碎ごみ	▲ 9	4	▲ 6	▲ 1	▲ 3	▲ 6	▲ 2	3	▲ 3	3	1	▲ 13	▲ 32
	合計	▲ 62	▲ 27	5	▲ 32	▲ 60	▲ 70	4	▲ 12	▲ 42	▲ 13	25	▲ 77	▲ 361

令和5年度のごみ収集量は、燃やすごみ、破碎ごみ合わせて7,230tになります。前年度比で361t(約4.8%)の減となりました。コロナ禍による影響もほぼなくなり、従来から続くごみの減少傾向が回復しています。これは、コロナ禍の影響で在宅で過ごす人が増えるなどにより、ごみの排出量が増加する期間があったものの、市民のごみ減量に対する意識が低下したのではないものと考えています。



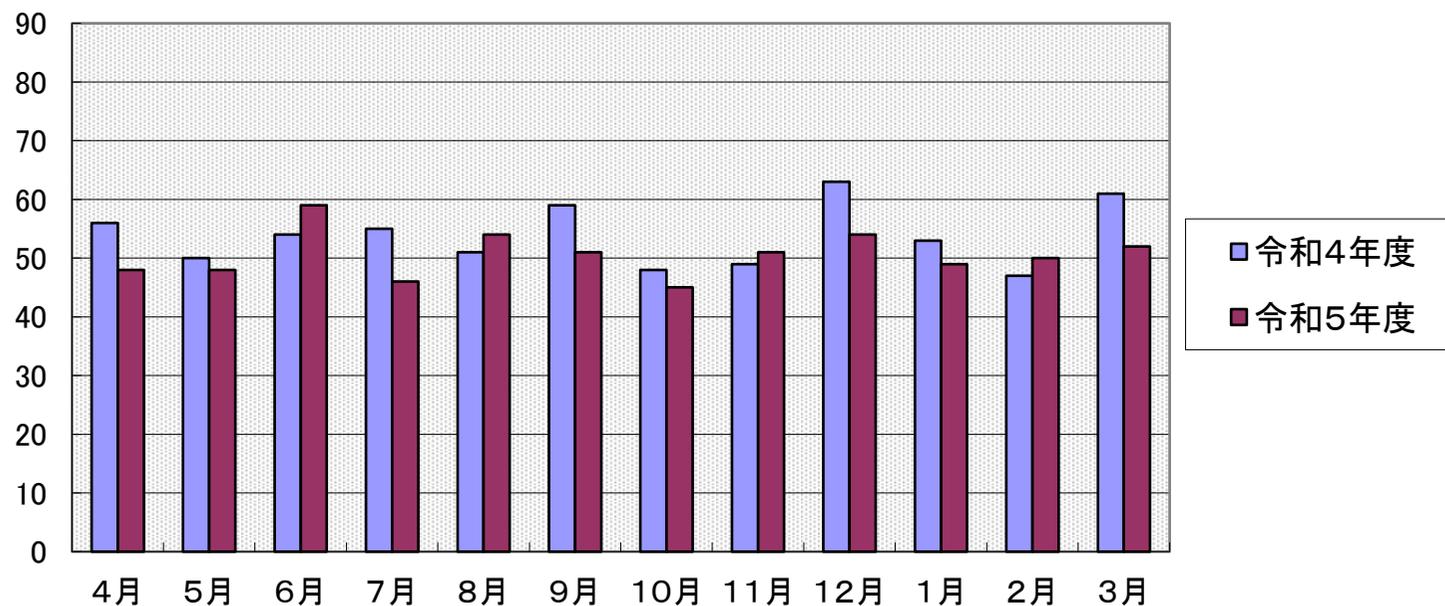
## 2 プラスチック製容器包装資源化量の前年度比較

(単位:t)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	56	50	54	55	51	59	48	49	63	53	47	61	646
令和5年度	48	48	59	46	54	51	45	51	54	49	50	52	607
4年度と 5年度の比較	▲ 8	▲ 2	5	▲ 9	3	▲ 8	▲ 3	2	▲ 9	▲ 4	3	▲ 9	▲ 39

令和5年度のプラスチック製容器包装資源化量は、前年度比で39t(約6.0%)の減少となりました。大きな減少となりましたが、可燃ごみ等の減少も大きいことから、全体的なごみ等の排出量が減少した年度であったと考えます。

(t) プラスチック製容器包装資源化量の前年度比較

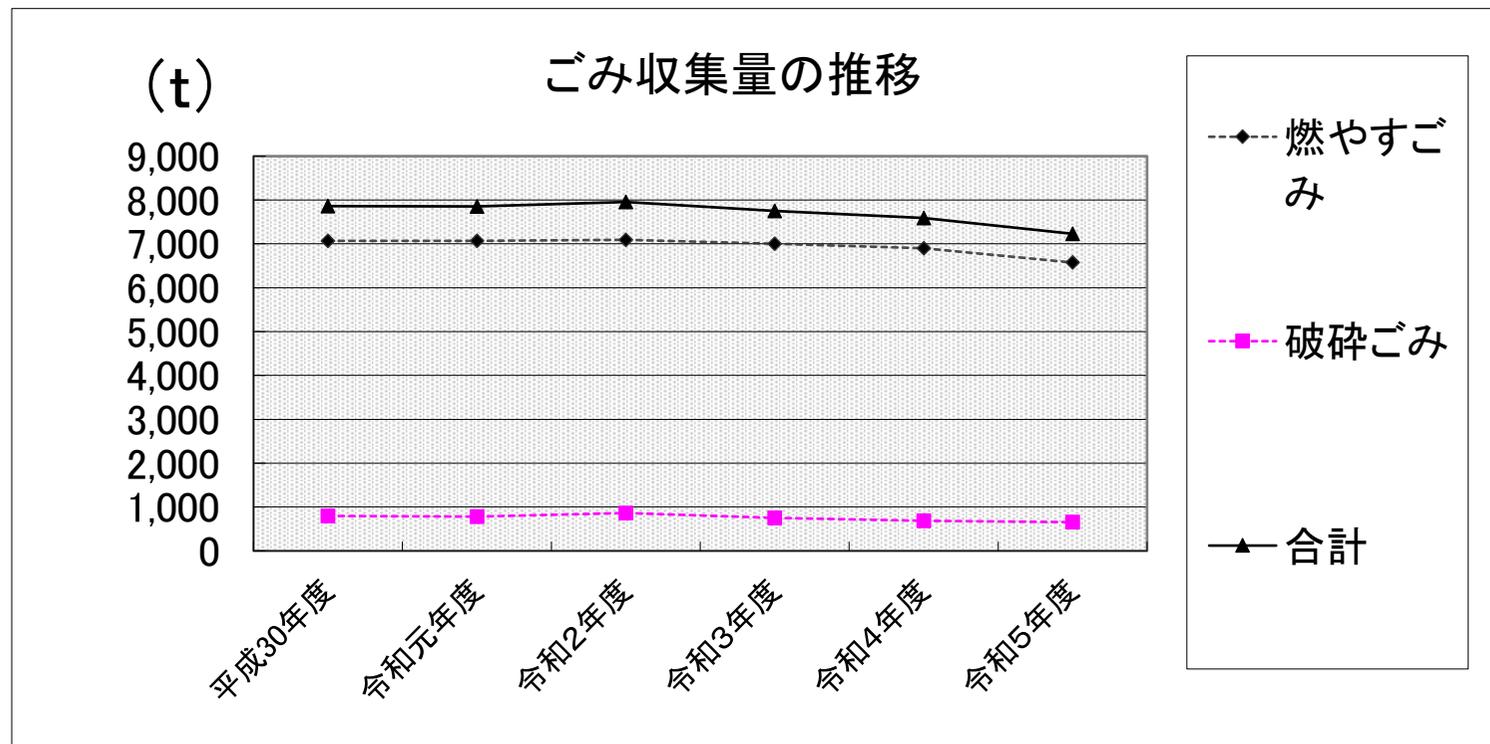


### 3 過去からの推移

(1) 平成30年度からのごみ収集量の推移

(単位:t) 【参考】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平成13年度
燃やすごみ	7,068	7,070	7,093	7,004	6,904	6,575	10,644
破碎ごみ	795	783	863	749	687	655	2,748
合計	7,863	7,853	7,956	7,753	7,591	7,230	13,392



岩倉市のごみ量は人口増加とともに増加し、平成13年度最大値13,392tになり、それ以降は古紙と古着の日、プラスチック製容器包装資源の回収の実施等により減少し続けてきました。コロナ禍により、令和2年度は増加に転じましたが、令和3年度からは再び減少傾向となり、従来の状態を取り戻したと考えられます。

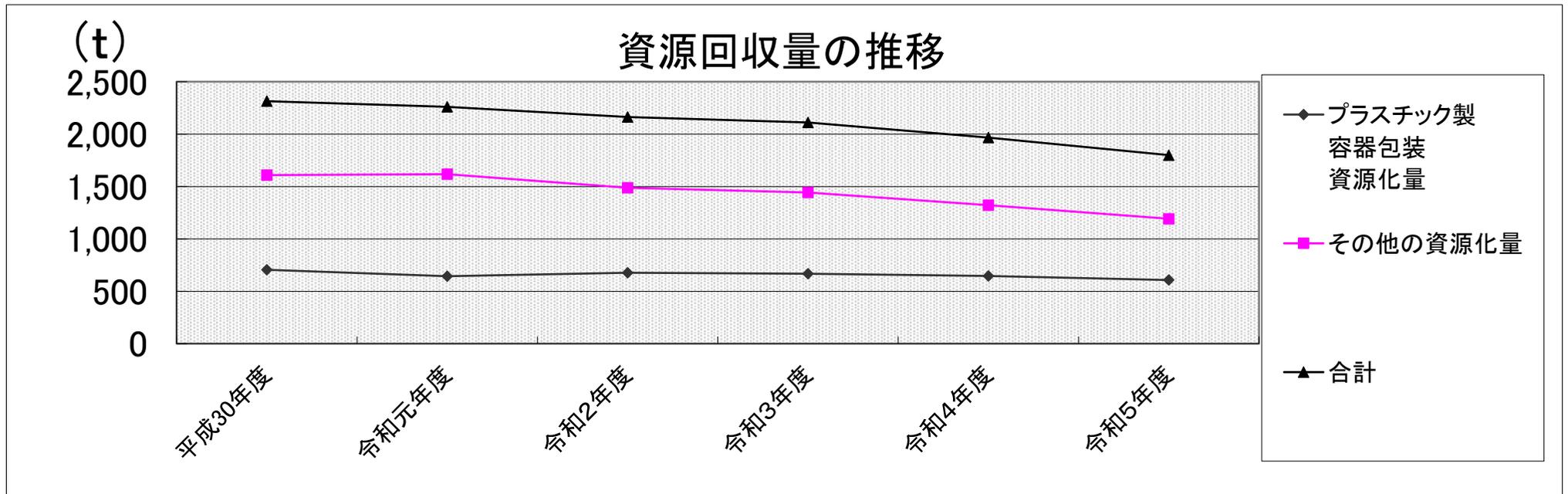
引き続き、安定的かつ継続的にごみや資源の収集を行えるよう、ごみの排出抑制や資源の適切な分別、リサイクルの周知啓発による市民意識の向上を図ります。

(2)平成30年度からの資源回収量、資源化率の推移

ア 資源回収量の推移

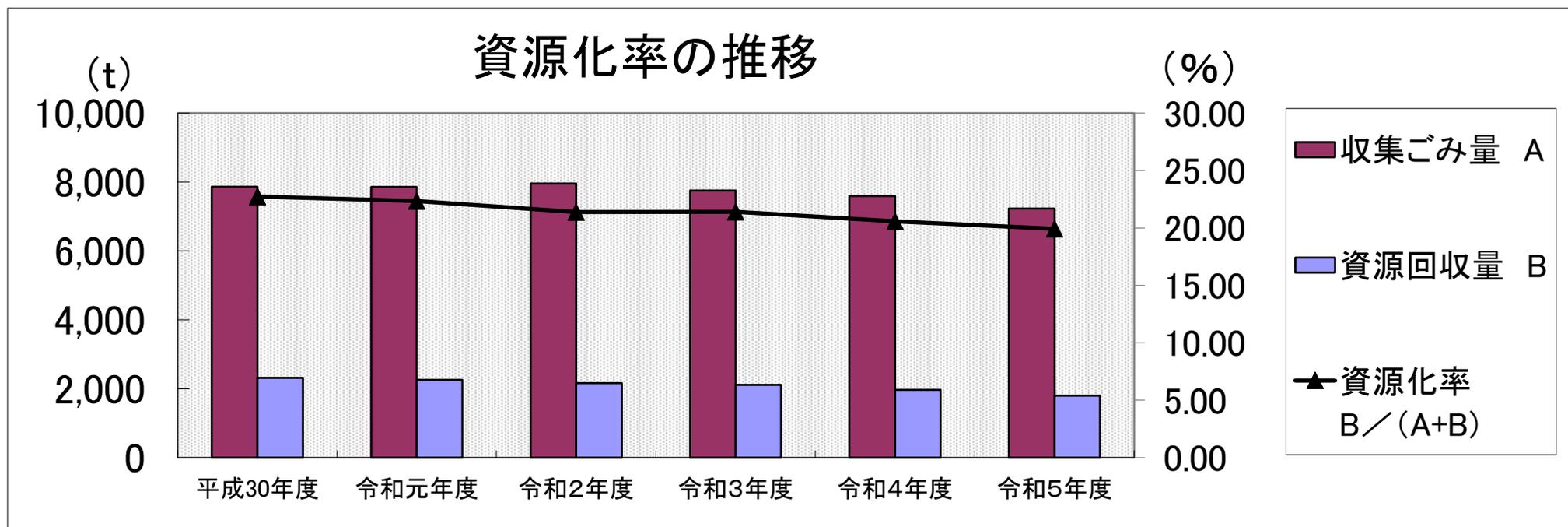
(単位:t)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
プラスチック製 容器包装 資源化量	705	643	676	668	646	607
その他の資源化量	1,609	1,617	1,488	1,443	1,321	1,192
合 計	2,314	2,260	2,164	2,111	1,967	1,799



イ 資源化率の推移 (単位:収集ごみ量、資源回収量はt、資源化率は%)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収集ごみ量 A	7,863	7,853	7,956	7,753	7,591	7,230
資源回収量 B	2,314	2,260	2,164	2,111	1,967	1,799
資源化率 B/(A+B)	22.74	22.35	21.38	21.40	20.58	19.92



資源回収量・資源化率については、コロナ禍の影響に伴うごみの排出量の増加等により令和2年度に1%程度低下しました。その後ごみの排出量は減少傾向に戻りましたが資源の排出量も減少し、令和5年度の資源化率は19.92%となりました。これは、メディアの発達による紙媒体の減少、企業努力による容器類の軽量化、さらに民間事業者による資源回収の増加などが影響していると考えられます。一方で、民間事業者が回収している資源の量から推測すると、市民のリサイクルに対する意識はある程度高いレベルを保っていると考えられます。

引き続き、e-ライフプラザや日曜資源回収の利用促進を図っていくとともに、資源回収団体への助成金制度の周知や雑がみ資源化をより一層推進するなどして、ごみ減量化・資源化を図っていきます。